

和
恒補急
糸
從

六



繪本寶鑑卷第三目錄

三十八

慈童

三十九

巨靈人

四十

齊石破塚

四十一

姐奴

四十二

將癩龜圖

四十三

起義橋合

四十四

裁安道

四十五

西王母

四十六

金沙金王

四十七

費長房

四十八

蝦蟆仙人

四十九

決揚

五十

上利劍

五十一

張伯房

繪本卷三目錄

五十二 列子

五十三 初平叱羊

五十四 斧柯

五十五 張果郎

五十六 一角仙人

五十七 琴高

五十八 盧敖

五十九 吹笛圖

六十 孫康

六十一 休穆

六十二 車胤

六十二 孫叔

六十四 月支

六十八 旭鈔

六十六 嫦娥

六十七 舟子

世八 姦童

姦童ハ周ノ穆王宮を此童ノ男あり幼きを
 納りけり。十のあまりふありしうば容顔羨靡
 ならずありあく。肌骨乃風濺たやうん
 ようびつよかむと。いと穢乃一室花二室小
 突めりまうあこまハ。人鬼とあやま。雲間
 とまけくおれ月のがうう小照く純くやせ
 母さうりんをいさぎなく。窈窕 姦や
 ば後宮濼と抛てこせと。妬も。室女粉
 と糖すく見んとと。影ふ。帝乃れおや人教
 なく。納りけり。とと。ゆげし。理を

へーが日すまやせんとおのひ谷水乃やうりり
 菊乃おち子不ありしけがけ菊乃葉あよかきつけ
 てむらふふその菊乃葉ふかきうらふ。不老不
 死の業れ水とありそのあがれ乃そくを不
 くらかれ里の民までと皆八百餘歳と
 小々くくや。意事とて幾年歴れとて移
 少年乃海の變せず。魏の文帝乃時か
 彭祖とあそくくくくくく。何彭祖とふ人
 今一人あり。これ上古黄帝叔小陸終とこれ
 人あり。その右一產ふ六人の子と生むと三人は龍の
 眼さけて生むと三人は右乃眼さけて生む。一は昆名

ところけ二八冬胡才三小あうら子と彭祖とふ。
 神伝小彭祖律ハ鑑。顯現の言孫殿の末
 小至て年己ふ七百六十七歳中て妻むせは
 遂に流沙乃西に往。壽とくく終ふ地と
 彭祖の才と今人と云。その身と曹姓と云書姓
 才と季連と云。心と六人あり。風俗通小陸終
 鬼方氏に娶はとと女姓と云。蓋孕んで三
 年育む。そ左骨と啓く三人もそ左骨
 と啓のく又三人あくとく。彭祖の事
 史記小入んく。意事とて各別なり。融
 混乱志く。是のゆへ今ふ志別なり。



北九 巨灵人

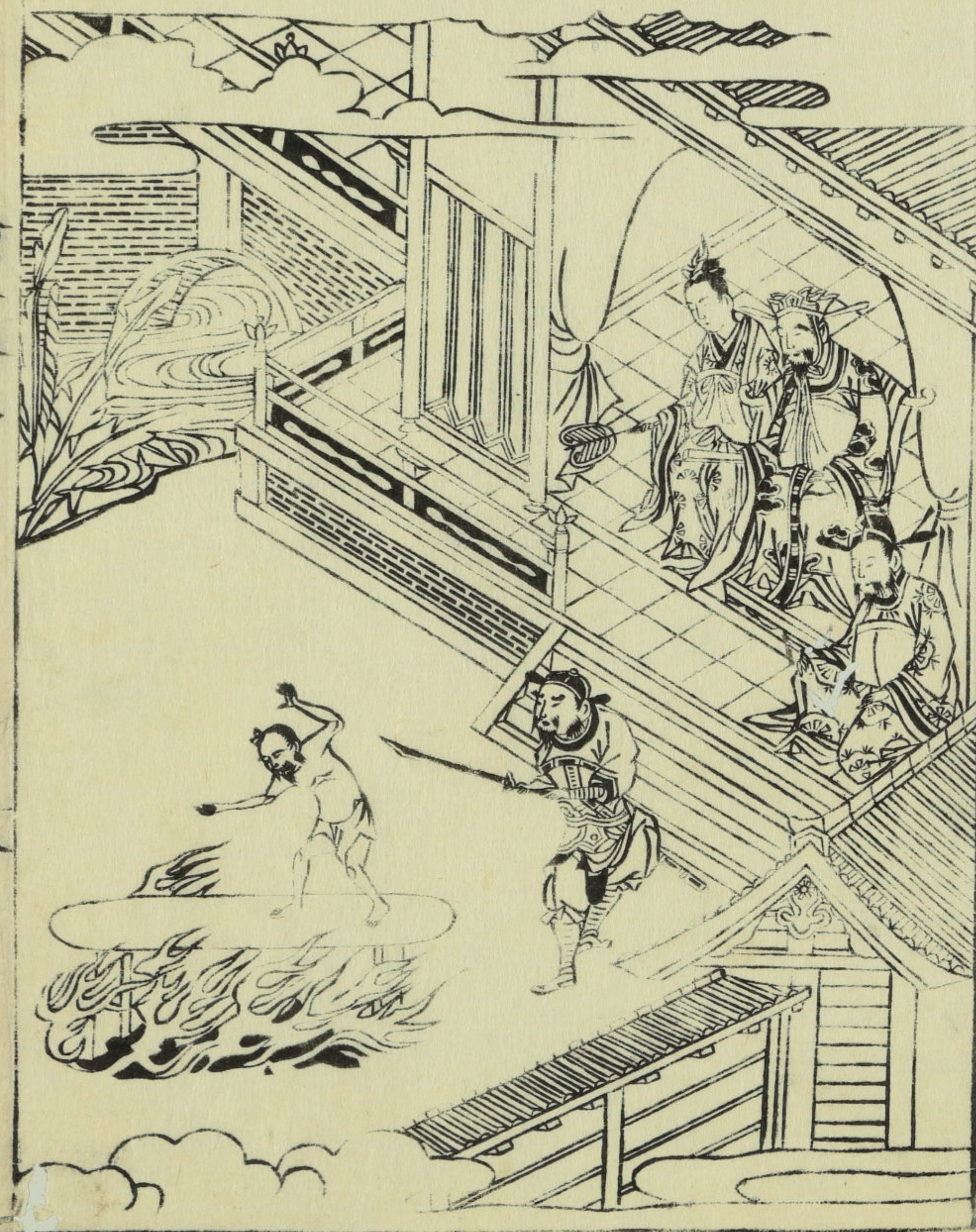
虎を巻くも大なり也。巨灵捲けり。其子也。破
 華山千万重。大なり。山と川とあり。あり。
 われ多敷に月影の山より人をもれ

第十 新后破環

吳國舟のふり。因王といふあり。在るが政が
 あり。終り。裁き。其子は。章名と妻
 とも。大史家乃。庸吏とあり
 たり。け。法。教。答。く。保。る。い。や。か。る。者
 とい。汎。端。乃。や。け。か。ら。く。ば。其。主。人。大。史。敷
 が。娘。の。く。ら。と。み。く。常。れ。人。お。り。と。い。う。お。れ

字一 姐奴

姐奴ハ殿の討まの者あり。討まられをうくお亡
 討まを悪行て地獄の刑とせむ。地獄といふハ
 なるも炭火と無し。その家綱の根とらじし
 綱の根とらじし。罪人と遊のかせられ。バ
 忽覺り悔ひ炭火と落く叫び死と匹夫討
 悪女姐子とら知ひ殺されし。か人殺の死
 名はせふ法にあら。死し。姐奴も周の廢城と
 家奴れ玉藻の前と。咄哉なり。玉藻よむを
 化とありし。家奴殺し。たわく。玉藻の女
 玉藻の女とら。されら。と。信鏡もたつ。也



徳川幕三

一乃後藤の中ふ
 瑞多う。皆知る者
 るをいひいせんと
 周まよと一人ハ親乃
 言ハ告ふりし中ふ
 賢く見ありし側
 かりふと抱あけそ
 飛とらしそり水



と出さるばすあつら後とかく死とたさうと
 あり。は買子見ハ司馬温公の積き取なま
 字三 起通將合
 待と修るふ起通將
 合のぼつありと起
 多向才一向あり通
 る才二向あり才一
 とくけて修る通の字
 とくく修るむ將ハ
 才三向いらあさ
 と修して修る合を

土土 言



舟は向流かたのふいとの三白と結ひ合はるる也
舟は向流かたのふいとの三白と結ひ合はるる也
舟は向流かたのふいとの三白と結ひ合はるる也
舟は向流かたのふいとの三白と結ひ合はるる也

載安道

晋の王徽子字ハ子猷世ハ王子猷と号り王羲之
乃子あり時ハ山陰と号り子猷と号り王羲之
初ハ竹林の絶倫と号り子猷と号り王羲之
ぞハ小艇と号り子猷と号り王羲之
忽ハ朋友の載安道ハ剡と号り子猷と号り王羲之
載安道ハ剡と号り子猷と号り王羲之
載安道ハ剡と号り子猷と号り王羲之
載安道ハ剡と号り子猷と号り王羲之

方子猷ハ山陰と号り子猷と号り王羲之
方子猷ハ山陰と号り子猷と号り王羲之
方子猷ハ山陰と号り子猷と号り王羲之
方子猷ハ山陰と号り子猷と号り王羲之



西王母

西王母ハ仙女あり漢ノ武帝にあひたる時侍女子
 湘ととり侍れと云ふ漢史の中ハ湘ハ母あり盤
 桃とつあり夫と鴨ノ子と云ふ。形亦久しき也
 母とつあり内宮と武帝ハ小女ハ三子食
 たり武帝ハ食く。甘く美なり。以て
 あり。あまは小盤ハ味ひりり。帝ハ桃と後
 といふ。あまは母といひて三子養ふ。あまは
 生らる年ハ中夜ハ地蔵ノ形と行くとも生れど
 帝ハあまは小盤ハ時ハ七月七日あり。
 武帝ハ宮中入り遊れと云ふ

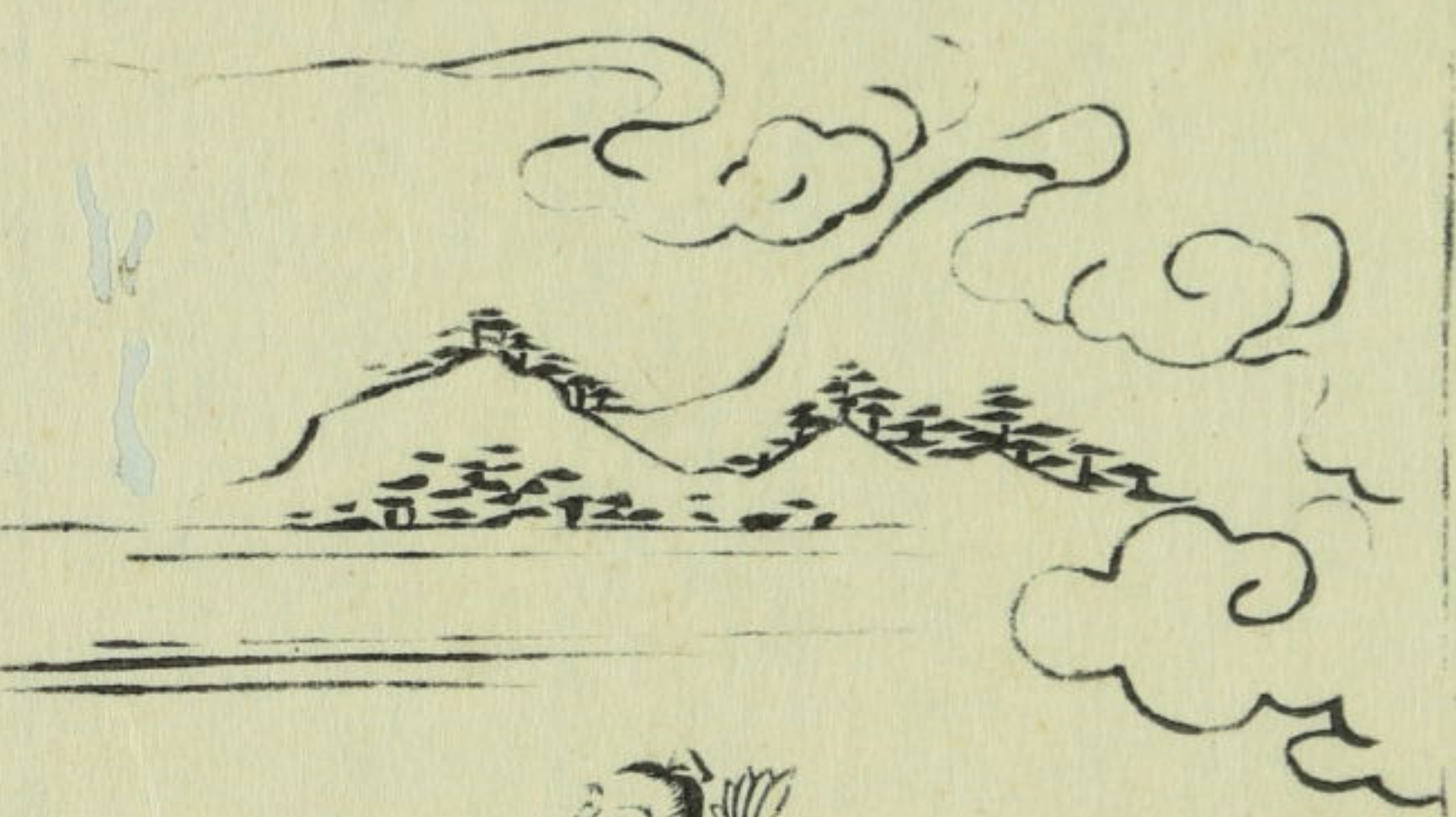
西王母 金沙女王

右小ハ西王母の侍
 女あり。金沙ハ嬬。金
 沙ハ妹。給小ハ三媛一
 對のとれたあまは
 盤あり。つと花道
 盤あり。つと花の枝
 解く二人と云ふ
 まろ
 ゆり



去れらるる。衆は鬼神等。於て長房を把殺し
 たりとせ。又考ふ。小石の仙人の壺公と云ふ。市小
 存く。末と書く。小空壺と隸れ。朝子愈く。日
 嘗つれ。壺の中より。鬼ツ。負長房。橋上
 りり。色と云ふ。其常れ。人子。何と云ふ。と云
 せり。壺中。入る。と長房。壺に。入。曰。大。小。廣
 く。と云ふ。壺。中。入。て。彩。ら。き。門。何。り。その。門。と
 云ふ。小。園。道。あり。橋。觀。音。金。沈。珠。と。満。め
 たり。橋。の。階。と。の。や。と。仙人。像。を。と。し。
 在。た。乃。侍。者。數十。人。け。去。ん。と。侍。り。費。

房を殺とふ。他人のつと。おと。男。の。仙人。あり。
 侍。と。して。皆。人。召。り。寓。る。耳。と。云。亦。長。房
 病。の。り。たり。は。續。搜。神。記。に。遠。東。乃。長
 房。の。病。あり。人。の。と。く。言。く。曰。多。あり。を。つ。つ。と
 下。金。義。他。と。ま。る。ん。で。千。年。今。始。く。海。以。漱。於
 之。を。け。く。人。民。ハ。非。あり。何。ぞ。也。と。孝。じ。さ。ら
 家。因。り。と。と。く。こ。ら。せ。ら。り。して。病。の。り。る。能
 と。男。と。亦。非。侍。志。り。いつ。黃。姑。公。の。仙人。子。也
 黃。姑。公。の。子。也。と。云。黄。姑。公。の。子。也。と。云。又。下。金
 子。安。と。い。ふ。人。を。侍。り。の。り。と。云。又。下。金
 威。は。別。費。長。房。が。こと。あり



蝦蟇仙人
今世も
乃蟾蜍と
仙人あり

鉄揚
仙人あり
おれと
吹かす

上利劔
劔の
仙人あり



みすは 斧柯

仙人乃冊卷とらんけり推人ハ晋乃玉質と云人も
 一人深山よゆも老人の暮と云けりといふ
 美人の言もよきとありあつめのごとくなり母の事
 と玉質よわく念ひし事く義くましく然れ
 玉質ハ一とく玉質斧と杖よつさしけり仙人
 斧は捨うててとせ見こと玉質斧の柯
 とらんけりともく捨うり物つく家より
 きはたすむ里とハみよきと云はれあり
 皆おろけ憂きありあ中一た仙人よとて
 玉質ハいし人山よ入るけり物と今七世れ

孫よつらとそふ玉質物とせ物しひるく
 七世の孫よなりとあり。まをみたりしとて
 柯山と名づく。物とせられらあり。物を
 おの物なれどあり。古詩ハ人説仙家日月遅
 仙家日月轉堪悲誰將百歳人間度只換
 山中一局碁は行ハ仙ありは年とせし月
 月の地ぐりとも。仙人ハ之とて却て物乃
 日月ハこれとせ物しひる。いんとありは
 玉質ハ一とく玉質乃暮ありとけりは斧の柯と
 くらく已り七世の孫とらんけり仙人の
 境よ入る。年とせ物とせのびらりと物乃

張果郎

飄華より弱と出と他人あり

二十六 一角仙人

一角仙人ハ天竺波羅奈國の人ありは仙人山乃と流
しに致存有り。流去子儂く倒しつゝは致ま
是終のつぎとあり。ひ然神と禁宰と明るゆ人
ふるあつと農業これより急りしは帝也
ひまひ仙人の通力と失るんがめ其村の美婦
麻理孫女又仙人と逢志めんると命せし麻理
孫折していつ。我一角仙の比子跨らん山と
どと六百の侍女と川邊被他人の茶菴の側

小房と流びはひに他人と致ありにりてまし
薪水と置び更ししが美婦と野へとま置び
し氷より少け加へく。日枝はほひほと増け
仙人よりあへしは仙人酒の味ひとあへり
は人車流乃水とよりあへり。是と流
うば次流小碎やごさん。氣ゆるり。公乱せん
ととらとらう。ひ。麻理孫。傍ふり。ひ。温ぬ
た。と。房。熱。た。れ。ど。り。と。う。り。穂。た。れ。ど。も。短。う
ど。織。々。進。ぶ。と。長。う。ん。法。好。そ。ま。つ。り。具。つ。し
窓。り。雜。々。容。氣。の。綿。乃。積。索。れ。致。仙。が。靈
雲。と。穿。ち。枯。木。れ。孔。汗。と。み。凍。梨。の。肌。洞。入

六十七 琴言
羅子^の家^を辨^す
と^見し^し術^{あり}と



六十八 盧敖
魯^の家^{あり}
と^見し^し術^{あり}
と



六十九

吹笛之圖

唐^の玄宗^{皇帝}楊^{貴妃}の^子笛^吹教^へた^り
王^郎推^指貴^妃吹^とり^り王^郎ハ^玄宗^ナリ



六十

孫康

孫康未嘗行て
此の言と聚め
て夜をせり

六十一

休穆

休穆は文は深く
ふとく、村の落
子もあつてふり
とあり

六十二

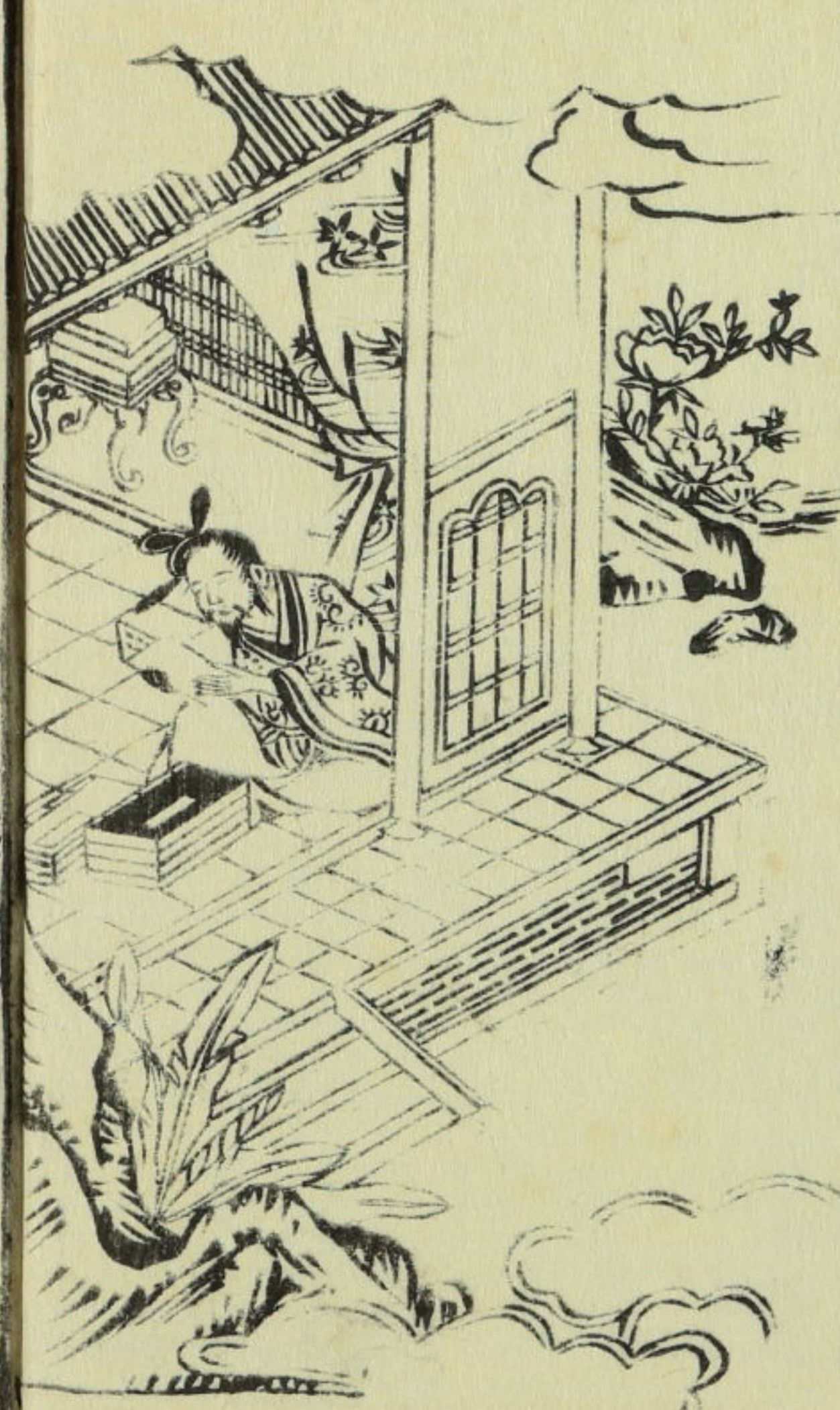
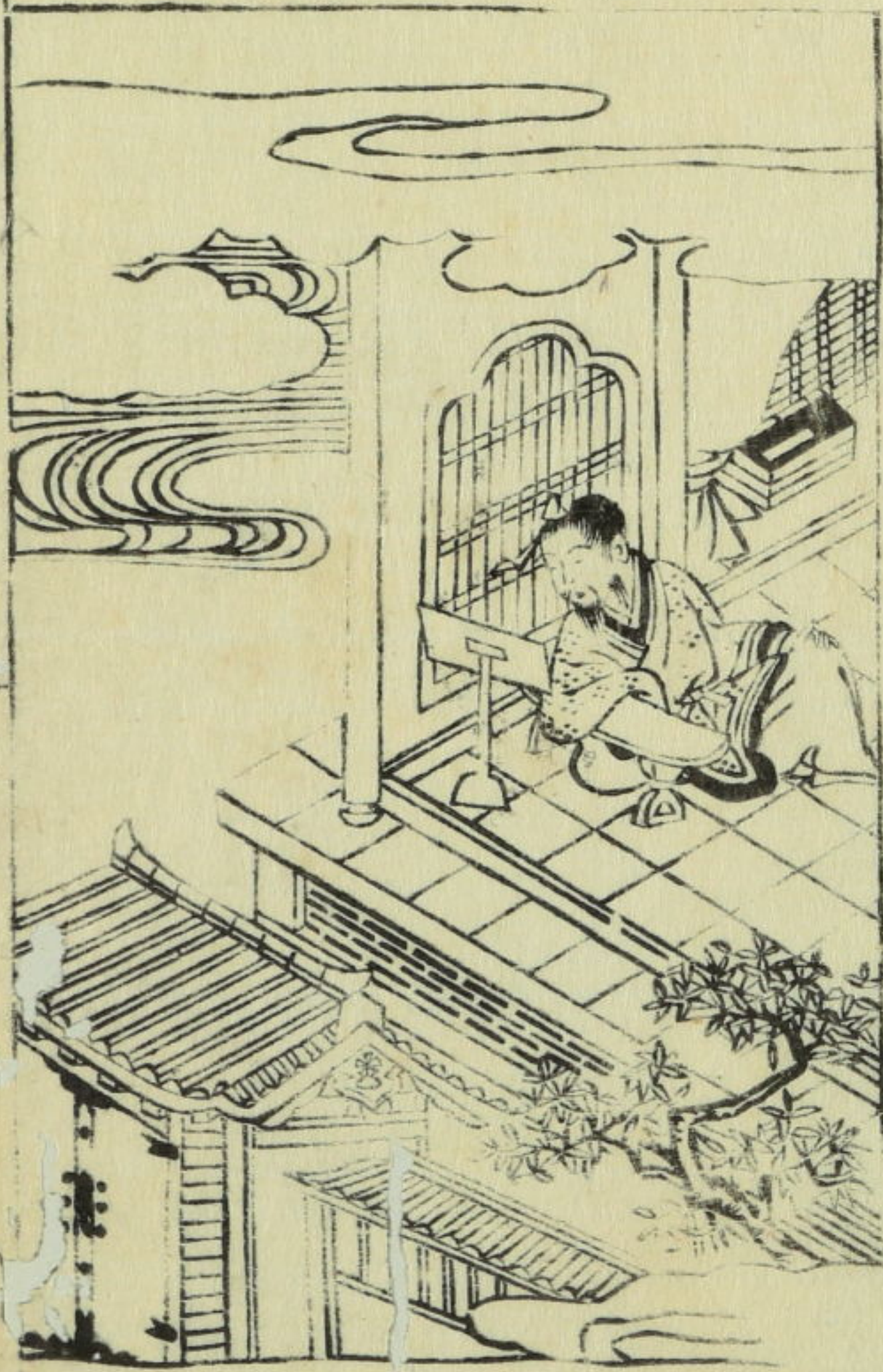
車胤

車胤未嘗に
仲燭を。囊に
螢と盛るの光を
夜をせり

六十三

孫敬

門戸を閉て書と
ふし人あり



れし色ゆりそあうらうぶし

六十八 勅使寄山

安山拾一ありあり

時帝より勅使あり

世の世と改とゆふ

とありしとき言ふ

よて迎去しと也常

子阿の寄山八等と

拾一八等とあり

とありし



